

定例記者会見 <平成30年4月5日(木)午前10時15分／庁議室>

福島民友新聞社（幹事社）からの事前質問

新年度の市政運営の方針について

私自身、就任してようやく4カ月になろうというところですから、基本的に運営の方針については変わっておりません。これまでも申し上げている通り、大震災から8年目に入った今でも、まだまだ課題が多く、復興は道半ばの状態にあるかと思えます。一方で、東北中央自動車道や、オリンピック・パラリンピックの開催、あるいは大学のほうも徐々に具体化してまいりました。かつ、この4月には中核市に移行しました。こうしたことは、我々が飛躍する環境がととのってきた、機が熟してきたのだろうと考えています。そういった状況をしっかりとらえて、市民の皆様から寄せられる期待感を推進のエネルギーに変えて、復興を加速し、福島の元気あふれる新ステージを作っていきたいと考えています。

かなり色々なものが、時間が迫っています。今日のこの会見もそうですが、「開かれた市政」と「スピードと実行」という、2つをモットーに、市民総参画をいただきながら、積極果敢に施策を展開していく、そして、風格ある県都として、福島市だけではなく県北全体に貢献をしていきたい、というのが私の抱負です。

中核市になりまして、やはりこれまで以上に気持ちが強くなったのは、中核市の移行式典の際にも申し上げた「健康といのちを守る取り組みの推進」「市民サービスの向上」「風格ある県都としての都市機能の強化と広域連携の推進」、こういったことを改めてしっかりとやっていかなければいけないと気持ちを新たにしております。

とにかく、まちづくりやオリンピック関係など色々なものの時間が迫っているのは間違いありません。それから、先週の会見でもお話しした待機児童。私も一つ一つチェックしながら取り組んでおりますが、やはり難しい課題だと思っています。これからも気を抜かずにしっかりと、待機児童ゼロを目指して頑張っていきたいと思っております。